

\*\*\*\*\*

日本看護系学会協議会ニュースレター速報

2019 年 4 月 2 日配信 (2019. vol.1)

\*\*\*\*\*

平成 30 年度第 8 回理事会が、日本赤十字看護大学で開催されました（開催日：2019 年 3 月 10 日）。理事会では、次年度の事業計画と予算（案）について、議論されました。その中から、3 点を速報します。また、理事会と同日に、「マスタープラン（2020）の説明・意見交換会」と日本看護系学会協議会 APN 推進プロジェクトが主催する「ケアガイドライン開発における学会・学術団体等との交流・連携」のワークショップが開催されました。各内容の概要をお届けします。

## 1. 理事会での検討事項より

### 1) 研究者倫理に関わる問題

二重投稿などの研究者倫理に関わる問題への対応を求める意見があった。複数の学会に同一論文が投稿されており、一つの学会で採択されると、他の学会での投稿を取り下げるという例もあったと報告された。

本件への対応については、社員学会の担当者間で情報の共有や課題について議論できる仕組みを作っていくこと、および研究者倫理について、強化する方策が必要となることが話し合われた。

### 2) 日本学術会議が募集するマスタープラン（2020）について

看護学学科会において、マスタープラン（案）が検討されていることが報告された。健康・生活科学委員会から申請の予定である。

看護学研究においては、政府の学術研究の方針の策定方法、およびマスタープランと科研費等の国の予算の関連を理解したうえで、研究費が申請できる仕組みづくりをしていく必要性が確認された。

### 3) 公的資金

日本看護系大学協議会と合同で進めている、科研費審査システム改革 2018 の影響に関する調査報告のまとめ（途中経過）について報告された。調査結果は、総会および HP 等で社員学会に報告する予定である。

## 2. JANA 主催企画

### 1) 「学術の大型研究計画に関するマスタープラン（2020）」の説明・意見交換会

JANA は、日本学術会議の協力学術研究団体であり、日本学術会議第二部委員である小松理事が JANA 理事を担当して協力関係を作っている。本企画では、日本学術会議からの「第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン」の募集を受けて、JANA 主催の本プランに関する説明を行った。

最初に、マスタープランは、学術の方向性に重要な役割を果たす日本の大型研究計画のあり方に一定の指針を与えるものであり、本プランを踏まえて、科学技術・学術審議会によって学術研

究大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップが策定されることが説明された。次いで、日本学術会議第二部 健康・生活科学委員会の位置づけと本委員会に属する分科会の説明がなされた。看護学分科会もこの委員会の下部組織である分科会の一つである。最後に、健康・生活科学委員会から提案する予定であり、看護学分科会において検討している計画（案）「Society5.0の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」が紹介され、参加者の皆さんと意見交換会が行われた。会場からは、既に進められている先進的な研究プロジェクトが紹介されるなど、申請を後押しする発言が多く見られた。

## 2) 日本看護系学会協議会 APN 推進プロジェクト「ケアガイドライン開発における学会・学術団体等との交流・連携」

JANA ではケアガイドライン開発を支援・推進していく活動を継続している。今年度は複数学術団体によるガイドライン開発を行った学会からその実際についてご講演頂き、併せて参加学会のガイドライン作成のニーズや意向等の情報交換や交流をはかることを企画した。

前半は、日本がん看護学会が日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍薬学会とともに取り組んだ「がん薬物療法における曝露対策合同ガイドラインの開発」について、平井和恵先生（東京医科大学看護学科教授・抗がん剤曝露対策協議会 理事）にご講演頂いた。合同委員会を設置し、具体的なガイドライン作成については、日本医療機能評価機構 EBM 普及推進事業 Minds の支援を受け、ガイドライン内容に関連するクリニカルクエスチョン CQ の設定、システマティックレビュー、日本図書館協会の検索支援、アウトカムの設定、AGREE II の評価等、一連のガイドライン開発に取り組んだ過程の説明があった。

後半は、Minds や日本医学図書館協会の支援に係る費用、システマティックレビューの進め方等、講演内容を踏まえた質疑があり、具体的なガイドライン開発に関して知見を深めた。また、事前アンケートのまとめを踏まえて、参加学会が取り組んでいるケアガイドライン等についてご発言頂くことができ、本会を通して、それぞれ交流や協力を繋がるきっかけづくりがあった。

今後も社員学会が看護ケアの質向上に向けて、ガイドライン開発という形で複数の学術団体で協力して活動を進めるには、JANA が橋渡しとなることが重要で、求められている役割であることを実感した。

\*\*\*\*\*

今週より、新年度が始まりました。桜前線も北上を続けており、地域によっては満開の桜のもとで新年度を迎えられていることと思います。本年度も、社員学会の皆様と、スムーズな情報共有と意見交換の場を作っていきたいと思います。

ニューズレター担当理事  
西村ユミ（首都大学東京）